

日経産業新聞

2017年6月9日付 掲載

電 通

V Bと資本業務提携

電子記録債権導入で協力

促し、下請け企業がトランザックスのサービスを使いやすくする。

トランザックスのサービスは下請けの中小企業の売掛金を電子債権にして買い取り、資金を融通するもの。売掛金の回収には3～4カ月かかるケースが多いため、支払期日前に現金化できて資金繰りが楽になる。電通はトランザックスの増資を引き受ける。出資額は非公表。顧客である大企業を紹介し、電子記録債権の導入を推進する。

電通は8日、金融とIT（情報技術）を融合したフィンテックベンチャーのTranzax（トランザックス、東京・港）と資本業務提携したと発表した。トランザックスは電子記録債権を使って下請け企業の資金繰りを改善するサービスを提供している。両社は大企業に電子記録債権の導入を促す。

トランザックスは2016年7月、それまでメガバンク3行と全国銀行協会だけだった電子債権記録業の指定をベンチャーワーとして初めて受けた。電通のほか、幻冬舎とともに電子記録債権の導入を促す。

※日経産業新聞より引用